

■児童・生徒の学力の状況

○RSTの結果を前年度と比較すると、基礎的読解力の項目によって増減に差がある。3年連続して、学校全体としては「同義文判定」、「照応解決」の項目で課題が見られる。  
 ○全国学力・学習状況調査の結果では国語、数学、英語ともに「知識・技能」「思考・判断・表現」の両観点で都平均を下回っていた。  
 ○OTOFASの結果では7年生は「漢字・語彙」「計算」ともにすべての項目で受験者平均を上回っていたが、9年生は「書き」の項目で受験者平均を下回っていた。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○考えを深めさせ、他の人と意見を交換するような質の高い協働的な学習の場をさらに増やしていく。  
 ○主体的に学習に取り組み、自分の考えをしっかりとめるように、習得・活用・探究の流れを徹底する。  
 ○生徒の思考や理解につながるような体験的な学習や問題解決学習をさらに実践する。  
 ○ICT機器の活用は教員によってまだ活用の頻度や技量の差がある。  
 ○発言や文章化など生徒が得られた知識をもとにOUTPUTする場を意図的に設定する。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○基礎的・基本的な知識・技能を習得し、「板橋区授業スタンダード」を基にした「高3中授業スタンダード」を軸に思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。また個に応じた指導を行い、自ら進んで学習に取り組む生徒を育てる教育を推進する。  
 ○「高3中授業スタンダード」（目標→自分の考えをもつ→考えを深める→まとめ・分かったこと・できたこと）を継続して実践し、生徒の学力向上と教員一人一人の指導力の向上を図る。  
 ○各教科で、一人一台のタブレットPCや電子黒板、実物投影機等のICT機器を有効に活用して「分かる、できる、楽しい」授業を推進するとともに、基礎・基本の定着を図り、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。  
 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、生きて働く知識や技能の習得等、これからの時代に求められる資質・能力を育成する。  
 ○指導と評価と支援の一体化（授業内での評価）を行い、学習内容の充実及び、生徒の学習意欲の向上を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教室に設置してある「目標」「自分の考えをもつ」「考えを深める」「まとめ」の表示を活用し、何をどのように考えるのか、わかったことなどを具体化し、明確にしていく。	○校内研修等の指導案に育成する基礎的読解力を明確に記載するとともに、学びのエリア研修会等で教科として、重視する項目について理解を深める。	○環境など複数の教科領域の内容が絡む取り組み計画内容の検討の際に各教科の視点を積極的に取り込む。 ○発表の場面を設定し、自己の経験や多様な知識を結び付けOUTPUTさせる。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアで「読みとく力」「キャリア」「環境」などについては研修会などを通し、学びのエリアの各学校の取り組み状況の情報交換を行っている。 ○「郷土愛」に関し、調べ学習をもとにした探究学習やiCSと連携した地域の方の講演会を行う。 ○「キャリア」や「環境」と同様、「郷土愛」に関しても3年間の見通し意をもった計画のもと実施する。	○iカリキュラムなどは3年間、その他学習テーマも年間を通して、どのように深めていくかという視点をもって計画をたて、生徒の実態に応じ、適宜検証、改訂を行う。 ○時間割変更の管理を行い、極力週単位でクラス授業数が揃うようにすることで、授業を見通しやゆとりを生み出し、授業準備や計画の質をあげる。 ○全員が校内での教科グループ単位の研究授業を行うことにより、自己の授業を検証する機会を設ける。	○毎日学校に持ってきて、生徒の学びを豊かにする手立ての一つとして、文房具のように活用する。 ○授業プリントなど教材をClassroomにあげることにより、休んだ生徒や復習を必要とする生徒の学習に対応をする。 ○オクリンクやJamボードの有効な活用により、協働的な学習を進める。